

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	身近にある地域の福祉会館の行事の把握やコミュニティセンターなどの情報を収集するなどして入居者が地域の一員として日常的に交流できるような取り組みを期待したい。	利用者様が一人の人間として、地域で暮らすことができる。	名東区以外の福祉会館やコミュニティセンターも周り、実行できることや新しい情報なども得て、町内会などにも参加し、利用者様が自然に生活でき、地域行事等にも参加できるように支援する。	6か月
2	10	コロナ禍により、面会などの制限があるため、電話連絡だけに留まらず、家族に送付しているお便りなどにコメントや写真などを利用して入居者の日常の様子や職員商会などを伝えたりして家族に安心を届けられる工夫を期待したい。また話しやすく相談しやすい関係や信頼感が保てる人的環境も整えていくことを望みたい。	今まで以上にご利用者様やご家族様から信頼される施設になる。	施設の状況が分かるように伝える。すでに「いだか便り」は作成し、毎月送付している。ご家族からお電話があった時はできるだけご本人様にお話しお話ししていただく。面会時はご家族が喜ばれるような近況報告を写真などと一緒にお伝えする。	3か月
3	3 29 49	施設としての地域との交流、連携があまりできていない。	地域でどの方にも「いだか翔裕館」はどんな施設かを知っていただき、認知症の方への理解を得る中で、ご利用者様に一地域住民として暮らして頂く。	施設のチラシをご近所に配るなどし、ご理解を頂くとともに、コロナ終息後、ご近所の方の消防訓練への参加等、見学会などを計画する。また、町内会に出向き施設PRなどを行う。町内行事などにもできるだけ参加する。近隣への外食、買い物等も再開できれば行う。	12か月
4	18 23	1年の間に職員の入れ替わりがあり、利用者さま一人ひとりの生きてこられた過程への情報、理解が足りない。また情報共有も充分ではない。	新しい職員も増えたため、利用者様の情報収集と見直しをし、より深い寄り添う介護を行う。	ご本人の生活歴や趣味、特技、前職、子どもの頃のことなど、担当を決め情報を集め直す。情報を共有し、ご利用者様への理解を深めその方の今の思いを知る。	3か月
5	13 48	今までは1.2階の職員、利用者様の交流が少なく各階が閉鎖的でした。	少しでも明るく、楽しく、働きやすい職場になるよう努め、それにより利用者様に楽しく暮らして頂ける環境にする。研修を重ね、質の高い介護を提供し安心安全に過ごしていただける施設にする。	3か月に一度面談(新人は1か月に1度)を行う。日頃から声をかけ、悩みを聞いたり、何かあれば、その都度職場の改善を行う。おやつや食事のリクエストに応えたり、週に1度の合同レクを行うなど1.2階の交流を図り、生活にメリハリや、楽しみを作り、皆様の笑顔が増えるような施設にする。合同レクは誰もが行えるように指導する。	12か月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。